

## 国内経済情勢

### 概観

鋳工業生産は4月、5月と減少を続けているが、内需の不振から出荷が停滞しているため、在庫調整もこのところやや足踏み状態にある。これを映じて商品市況は、不ぞえ商状を続けており、また企業の資金需要も低調に推移している。

この間、国際収支面では貿易外収支、資本収支が逆調を示したが、貿易収支は依然好調を維持している。

このような情勢にかんがみ、本行は6月25日公定歩合の日歩1厘引下げを決定し、26日から実施した。

#### 生産は減少、出荷の不振から在庫調整はやや停滞きみ

5月の鋳工業生産(季節調整済み、速報)は-2%と前月(-1.7%)に引き続き減少した。財別にみると、生産財は、非鉄、化学などの前月ストライキ減産による反動増や鉄鋼一次製品の増加もあって微減にとどまったが、資本財、建設資材、消費財など最終需要財は軒並みかなりの減産となった。とくに各種機械、家庭電器などを中心に、一般資本財、耐久消費財の減少が目立っている。

5月の鋳工業出荷(季節調整済み、速報)もまた前月に引き続き-1.5%の減少となった。財別にみると、生産とほぼ同様の動きを示しており、生産財、非耐久消費財の減少が小幅にとどまった反面、資本財、建設資材、耐久消費財は需要の低調を映じてかなりの出荷減となっている。

このように生産は抑制基調をかえていないが、

出荷が思わしくないため、5月の鋳工業メーカー製品在庫(季節調整済み、速報)は、+1.3%の増加となった。このため製品在庫率も上昇し、在庫調整ははかばかしい進展を示していない。

企業の設備投資動向は、各種産業機械類の出荷が5月の速報でも軒並み減少していることからみて、引き続き低調裡に推移しているものと思われる。4月の機械受注額(海運を除く民需、季節調整済み)は、3月増加の反動で-17.4%の減少を示した。

なおこうした企業の生産、投資活動の低調を映じて、新規求人数はこのところ減勢を続け、他面新規求職数は漸増しているため、一般労働力需給はかなり緩和している。しかし賃金の上昇傾向は依然根強く、今春の賃上げ幅は平均して10%程度に上った模様である。

#### 商品市況は不ぞえ商状を維持

5月から6月にかけての商品市況をみると、石油が強含みを続けているほか、繊維のうち主力商品(綿糸、スフ糸、そ毛糸)には、生産調整実施期待をはやして、安値訂正の動きもうかがわれる。しかし、このところ多少とも持直しきみであった鉄鋼に再び軟弱気配を示す品種(条鋼類、厚板など)がふえ、また非鉄、紙、セメント、合成樹脂などもやや不ぞえの度を加えた。

このように最近の商況は、生産調整の進展にもかかわらず、需要の不振からごく一部の商品を除きまだ立直りの気配がうかがわれるに至っていない。これには、不需要期入りや天候不順などといった事情も働いている。さらに4~5月の需要期が、ほとんど需要の盛上がりを見せぬまま終わってしまったことに対する失望感が、景況の先行

き見通し難や証券市場の沈滞などと微妙にからんで、商品取引を一段と慎重化させていることも無視できない。このため、生産調整を新たに実施しようとする業界もあらわれている。

こうした商況の不ざえを映じて5月の卸売物価は前月比保合い、6月上旬は前旬比 $-0.1\%$ と小幅ながら軟化した。

5月の消費者物価(全国)は野菜、果物の反落を主因に $-0.9\%$ と低落した。しかし家賃地代は続騰し、被服も工賃高を主因に上昇している。6月(東京)は入浴料、宿泊料など雑費の値上がりを中心に $+0.4\%$ と反騰した。

#### 資金需要は依然低調、企業の金繰りは徐々に緩和の方向

5月の金融市場をみると、銀行券は行楽資金などの還流進捗を主因に、前年同月を上回る還収超過を示したうえ、財政資金も若干の払超となったため、市場は引き続き平穩裡に推移した。この間本行は約700億円の債券を売却し、また本行貸出も約150億円減少した。なお、コールレートは6月にはいり日歩2厘低下した。

5月の銀行貸出増加額は前年同月を下回った。資金需要の動きをみると、恒例の決算関係資金は、収益悪化に伴う所要額の減少にもかかわらず借入依存度の上昇からはば前年並みの規模に上ったようである。その他の需要は全般に低調を続けており、企業は景況見通し難や採算面への配慮などから借り控えの態度をかえていない。金融機関は選別融資の方針を維持しているが、コールレートの低下や資金繰りの好転などから、貸出をやや積極化する向きもみうけられる。このため、総じてみれば企業金融は徐々ながら緩和へ向かいつつあるとみられ、現に企業の手元現預金水準も漸増傾向にある。

株式市場は依然低迷を続けている。この間一部

証券会社の業績悪化を契機として、投資家の間に不安の発生が懸念されたため、本行は5月下旬証券会社の運用預り有価証券の払戻資金等を融資した銀行に対する特別融通措置を決定した。

#### 貿易収支は好調ながら総合収支は引き続き赤字

5月の外国為替収支は、経常勘定が、貿易外収支の赤字幅拡大にもかかわらず、貿易収支の好調持続から、かなりの黒字となったが、他方資本勘定が払超となり、総合では36百万ドルの赤字となった。貿易収支の黒字は102百万ドルに上ったが、これは輸入期にもかかわらず、輸入が国内経済活動の停滞を映じて着着きを示している反面、輸出が依然好調を維持しているためである。

5月の輸出は、為替、通関とも前年同月比 $+37\%$ 前後の高水準を示し、また季節調整後の実勢でも、ともに前月比 $+7\%$ の著伸となった。商品別の動きを為替でみると一部の品目を除きいずれも好調であるが、とくに鉄鋼、合繊、自動車、一部化学品などの増加が著しい。仕向地別には、欧州向けがやや停滞さみであるが、米国ははじめ各地域向けとも順調な推移を示している。5月の輸出信用状は米国向け鉄鋼の一服などもあって、前年同月比 $+26\%$ と伸び率はやや鈍化しているが、なお高水準を維持している。

5月の輸入は前年同月比為替で $+7\%$ 、通関で $+3\%$ とさらに着着きを加え、季節調整後の実勢でも前月比おおむね横ばいとなっている。商品別の動きを為替でみると、鉄鉱石、石炭、石油などは高水準を維持し、また米穀の増加がこのところ目立っているが、その他は概して着着きさみに推移している。海外港湾ストライキなどの関係で在庫のくいつぶしのみられた輸入原材料も補充が進んでいることや5月の輸入信用状、輸入承認などの動きから推して、当面輸入は落ち着いた足取りを続けるものとみられる。